

次世代低公害車技術開発プログラム

～技術のブレークスルーによる世界で最もクリーンな自動車社会の実現～

16FY(うち運営費交付金) 15FY(うち運営費交付金)
169.5億円(137.5億円) 169.0億円(66.9億円)

目的	<p>大気汚染問題や地球温暖化問題等の環境問題に対する関心が高まりつつあり、自動車に起因する環境問題への対応が急務である中、乗用車や大型車の分野において、次世代低公害車の実用化に向けて、燃料面も含め、包括的な技術開発を行う。</p>
目標・効果	<p>次世代低公害車技術開発プログラムは、自動車に起因する環境・エネルギー問題である、</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気環境問題(自動車排出ガスの低減) 地球温暖化問題(燃費の向上等) エネルギー問題(石油代替燃料の利用) <p>の同時解決を目指し、自動車と燃料の両面から包括的に技術開発を実施。環境負荷の小さい自動車社会の構築、石油に極度に依存したエネルギー構造の改善を目指す。</p>

施策パッケージのポイント

【主要プロジェクト】

- ・革新的次世代低公害車総合技術開発(2004～2008)

大気環境・地球温暖化・エネルギー問題の同時解決に向けて、石油代替燃料を利用した次世代の低公害車の技術開発を実施。

16FY【新規】
革新的次世代低公害車総合技術開発 9億円

- ・次世代低公害車の関連する燃料関連技術の開発(1999～2006)

燃料インフラ関連技術として、DME製造技術や、合成燃料の製造技術等の新規クリーン燃料製造技術の研究開発を実施。

16FY(15FY)
環境負荷低減型燃料
転換技術開発 3.2億円(31.4億円)
重質残油からクリーン燃料
転換プロセス技術開発 2.5億円(2.5億円)

- ・燃料電池自動車の開発(2000～2007)

(「固体高分子形燃料電池/水素エネルギー利用プログラム」の再掲)

16FY(15FY)
水素安全利用等
基礎技術開発 6.6億円(45.5億円)
固体高分子形燃料電池
システム技術開発 43.3億円(51.1億円)

政策上の活用等のポイント

【低公害車の普及促進】

低公害車購入時やインフラ整備への支援、税制措置等により、普及を促進。